

2024年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園
枝光会附属幼稚園

当園ではこの度、2024年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

カトリックの精神に基づきながら、子ども達に暖かい雰囲気と良い環境を整え、時代に適した保育を行いたいと考えています。

その為に常に家庭、特に母親との連絡を密にし、神様を愛し、他人をも愛する事の出来る心を養い、自立心や正しい躰を身につけさせたいと願っています。

又、自然とふれあう機会を持つことによって、全てのものが持つ命の大切さを教えると共に、情操教育に重点を置き、遊びの中から明るく素直な思いやりのある幼児に育てることを目的にしています。

II. 今年度の重点目標

- 指導計画の作成
化
●地域への開放と連携
- 保育者間の協力・資質向上
●カトリック園として
- 環境・安全管理の強化

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	指導計画の作成	・若い保育者と保育の均質が損なわれないよう、園の保育方針や園が今まで大切にしてきたことを保育者全員と共有すると共に、時代にあわせて新たに大切にしていくことを指導計画や保育に生かす。	A	・若い保育者とよく話し合うことで、保育の反省や共有できることが増え、次に生かすことができた。先輩の先生からの助言は、園として大切にしてきたこと含め、子どもとの関わり方・言葉遣いなどメモするよう心掛け、実践することができた。
2	保育者間の協力・資質向上	・複数担任制のため、保育後に各々が見た子どもの姿や遊びの様子を共有し、記録に残す。 ・クラス内で情報共有の時間を確保し、保育者として経験を積むことで引き出しを増やし、保護者との信頼関係を築いていき、家庭の様子も含めて各々の子どもへの声かけを考えていく。	A	・クラスのトップが行う10分面接の内容や、日々の保育での出来事を記録に残し、共有することができた。また、今後の対応について、保育者によってバラつきがないよう相談を密に行った。 ・クラス担任のみで話し合うのではなく、他の保育者とも情報交換を行い、多方面からのアドバイスにより広い視野で物事を解決に導くことができた。

2024年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園
枝光会附属幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況	
3	環境・安全管理の強化	・保育者自身が環境の一部を担っていることを自覚し、常に保育室の整理整頓を心がけ、収納方法を工夫して、安全で清潔感のある環境構成をしていく。（行事終了後、不要な物は処分し、次年度の担任にきちんと申し送りをする。） ・危険が予測される場合は、幼児と一緒に見たり考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにする。	A	・整理整頓については、全教員が同じ意識をもって取り組み、普段できないような片付けは長期休暇を利用した。また、子ども達にも身の回りの整理整頓を意識させ、危険な遊びをした時に本人にも気付き理解できるよう話し合い、安全に楽しく遊べるよう声がけした。
4	地域への開放と連携	・近隣の保育園や小学校と交流をもち、子育て支援や教育内容について理解を深める。 ・未就園児親子と一緒に遊んだり楽しめる機会を充実させる。（園庭開放、園行事参加、育児相談など）	A	・近隣の小学校行事に参加し、小学校の雰囲気や活動内容を見ることで、興味を深め良い経験ができた。 ・近くの公園で遊ぶ時には、保育園の子どもと関わることができ、園庭開放では在園の親子と外部の親子と一緒に遊び、交流をもつことができた。
5	カトリック園として	・普段の生活（家庭・幼稚園共に）の中での出来事（感謝する心、頑張ったり我慢するなどの豊かな心、赦すことのできる心、生命の大切さ、生活や遊びのルールなど）から神さまの存在を身近に感じつつ、お祈りの時間にこだわらず、自分のことばで子どもと共に祈ることができるようにする。	B	・教員間でカトリック教育を行うことに関して優先度にバラつきがあるため、園としてもっと話し合い相談した上で、カトリック教育について認識をそろえていきたい。 ・聖歌の難しい言葉の歌詞を子どもにうまく伝えられなかった。 ・お祈りの大切さや神さまが常に見守ってくださっているということは子どもに伝わったが、普段の保育の中で、毎日小さなことでも感謝の心、がまんの心、ゆるす心など積極的に聞くことでもっと神さまを身近に感じられたのではないかと思った。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

Ⅳ. 今後取り組むべき課題

1	教育課程の編成	・幼児の年齢や発達、特性に応じた教育課程を編成し、それをもとに保育の計画を立てる ・園の教育方針・園長の考えについて、教職員と定期的に話し合い、理解を深める
2	教員間の連携と資質向上	・仕事の手順をよく考え、能率よく行う。また、互いに保育を見せ合って検討し、評価・反省を考え、自分の保育の在り方や悩みについて他の教師や主任・園長・副園長と話し合う ・教師らしい品位のある言葉・正しい日本語を用い、服装・髪型・身だしなみなど清潔感のあるものを心がける
3	指導とかかわり	・全体を見つつ、死角になりがちな場所で活動しようとしている幼児についても、ある程度その活動の様子を推察する ・他のクラスや異年齢の幼児たちと関わる中で、特に指導上配慮を必要とする幼児については、園の教職員全体でよく話し合い、クラス・学年を超えて情報を共有し、共通理解をもって対応するようにする
4	環境の構成と安全への配慮	・園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊び方はないか、活動は年齢や能力に対して危険ではないかなど、常に観察し、安全で清潔感のある環境を構成する ・異年齢児との関係を活かして、幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間を構成している ・防犯防災のマニュアルを教職員で確認する
5	カトリックの園として	・カトリック園向けの研修会で学んだことを参考に、保育案に神様のことを幼児に伝える時間を習慣化する ・感謝や思いやり、ゆるしなど一日の保育の中での出来事を幼児と共に話し合う時間を作る ・幼児にわかりやすくやさしい歌詞の聖歌を教える

V. 学校関係者の評価

日々の保育で先生方は、一人ひとりの発達段階に応じた言葉かけで、本人の力を信じて待ち見守りくださることで、子ども達が自分の心の声を守りながらもお友達の意見に耳をかたむけられるように導いてくださいました。子ども自身が、最善の解決策を模索する姿勢を培う上で、「ごめんなさい」や「どうぞ」などの具体的な言葉を示すなど、状況に即した丁寧な指導で、子どもの視点にたった自己解決へのお導きをいただけたと感じております。

保育室や園内は、季節感や個性を大切にしてお製作等の掲示や、常に整頓され安全に考慮された設営がなされ、マスクのとれた環境下での豊かな表情でのやりとりや、温もりの中にも礼儀のある関わり合いを重視されていました。また、日々の祈りを通して神様を感じ、愛ある内省の時を過ごし、感謝や思いやりの心を育むことができました。

教職員間の情報共有にも細やかな配慮が感じられ、お互いや周りを思いやる先生方の温かな雰囲気子ども達の安心感につながり、のびのびとした保育環境が心の成長につながったと感じております。保護者に対しても、コミュニケーションをとりながら、既成概念にとらわれない時風に誠実な姿勢で、よりよい関係性の構築に最大限努めていただきました。園行事でのお手伝いや講演会等、親子共に思い出深い学びの機会も多く設けられ、大切な幼少期に、カトリック園として神様の存在や聖歌、自分の心と深く向き合う恵まれた教育を賜ることができた事に、信頼と感謝を感じております。

学校評価委員 小野澤 郁恵

学校評価委員 黒木 幸子

学校評価委員 島崎 智子